

SEA TRIAL

Ms MODERN TRAWLER

DELPHIA ESCAPE 1150 VOYAGE

ポーランドのブランド「DELPHIA(デルフィア)」。1990年創業のボートビルダーは、創業からわずか30年で世界から注目されるセールボートビルダーへ成長。そして、次のステージへ。セールボートだけでなくモーターボート建造でも世界から注目を集めている。ポーランドから北欧へ、そして、ヨーロッパから世界へ羽ばたくDELPHIAの最新デザイン「Escape 1150 Voyage(エスケープ1150ボイジャー)」。世界戦略のためのアコモデーションに加え、ボートスピードと品質を手に入れた新生DELPHIAが船出する。

text: Yoshinari Furuya photo: Makoto Yamada
special thanks: OKAZAKI YACHTS <http://okazaki.yachts.co.jp>





モダンで個性的なスタイリング、35フィートとは思えない充実したアコモデーション 世界的なビルダーグループの一員となり、「DELPHIA」は次のステージへと進化を遂げた

ポーランドやトルコなど東ヨーロッパの工業国から次々と新興ビルダーが登場している。もちろん物価や人件費の安さが一番の理由。だが、安いだけではない。コストパフォーマンスを武器に何年も前から大手ビルダーのボート建造を請け負い、世界的なビルダーの価格競争力を支える重要な役割を担ってきた。大手ビルダーの要求を満たす最新の設備を整え、最新モデルを最新の建造技術を使い大量に建造する。こうして、新興の造船所が育ってきた。

「DELPHIA (デルフィア)」の造船所もその一つ。品質管理を含めた技術は蓄積され、多くの技術者も育っている。あと新興ビルダーがオリジナルブランドを立ち上げるに当たり足りないものは、商品企画力とデザイン。だが、そこは大手ビルダーと同様に外部の一流デザイナーやナーバル

アーキテクトに依頼。歴史とブランド力こそないが、立ち上げと同時に、大手ビルダーと変わらない最新のデザインと品質のボートを建造することができたのだ。

DELPHIAは、およそ600人のスタッフで、年間1,300隻を建造する巨大造船所だ。現在自社ブランドの建造は2割程度。残りのおよそ8割は世界的なビルダーの建造を請け負い、安定した経営を続けている。そのビルダーとは、世界最大のGroupe BENETEAU (ベネトゥ・グループ)。小型船外機艇からワンオフのメガヨットまで建造する巨大グループのラインナップ中、BENETEAUやJEANNEAUの小型セールボートや小型モーターボートの建造をする。他にはQUIKSILVERのモーターボートも建造している。



バウもスターンもほぼ垂直。キャビンは前後に大きく、フロントウィンドシールドも垂直。スタイリングは、全長を一杯生かした長方形のBOXに近づき、広いキャビン空間を確保。デザインは、ハウスボートやナローボートに近づいている。最新トローラー「Escape 1150 Voyage」は、低速では低燃費、プレーニングをして20ノット以上のスピードで走ることもできる、移動できる水上コテージ。



そして、昨年11月、マリン業界に激震が走った。それは、拡大を続け、品質もブランド力も向上し、世界に認められるボートビルダーに成長したDELPHIAが、BENETEAUグループに加わったというニュース。20%の株式を残し、残りの80%をBENETEAUグループが所有。DELPHIAの現経営体制を維持した形でBENETEAUグループの傘下に入ったのだ。販売数を増やし拡大するBENETEAUグループとしては、すでにある最新設備と、BENETEAUグループのボート建造の経験を通して培われた技術力と人材に魅力を感じての戦略。また、DELPHIAとしてもブレイクスルーのタイミング。財務力や部品調達力の強化により、DELPHIAブランドの向上と継続的、安定的な経営を目指した成長戦略と発表している。まずは大きく体制を変えることなく、Groupe BENETEAUの一員としてセカンドステージがスタートしたようだ。

*

今回紹介するのは、DELPHIAの中核モデル「Escape 1150 Voyage (エスケープ1150ボイジャー)」。この全長10.8mのEscapeシリーズは、DELPHIAのモデルの中でも特殊なもの。「1080S」、「1100S」、「1150V」の3モデルは、L.O.A. (全長)もBeam (全幅)も全く同じ。その3モデルの

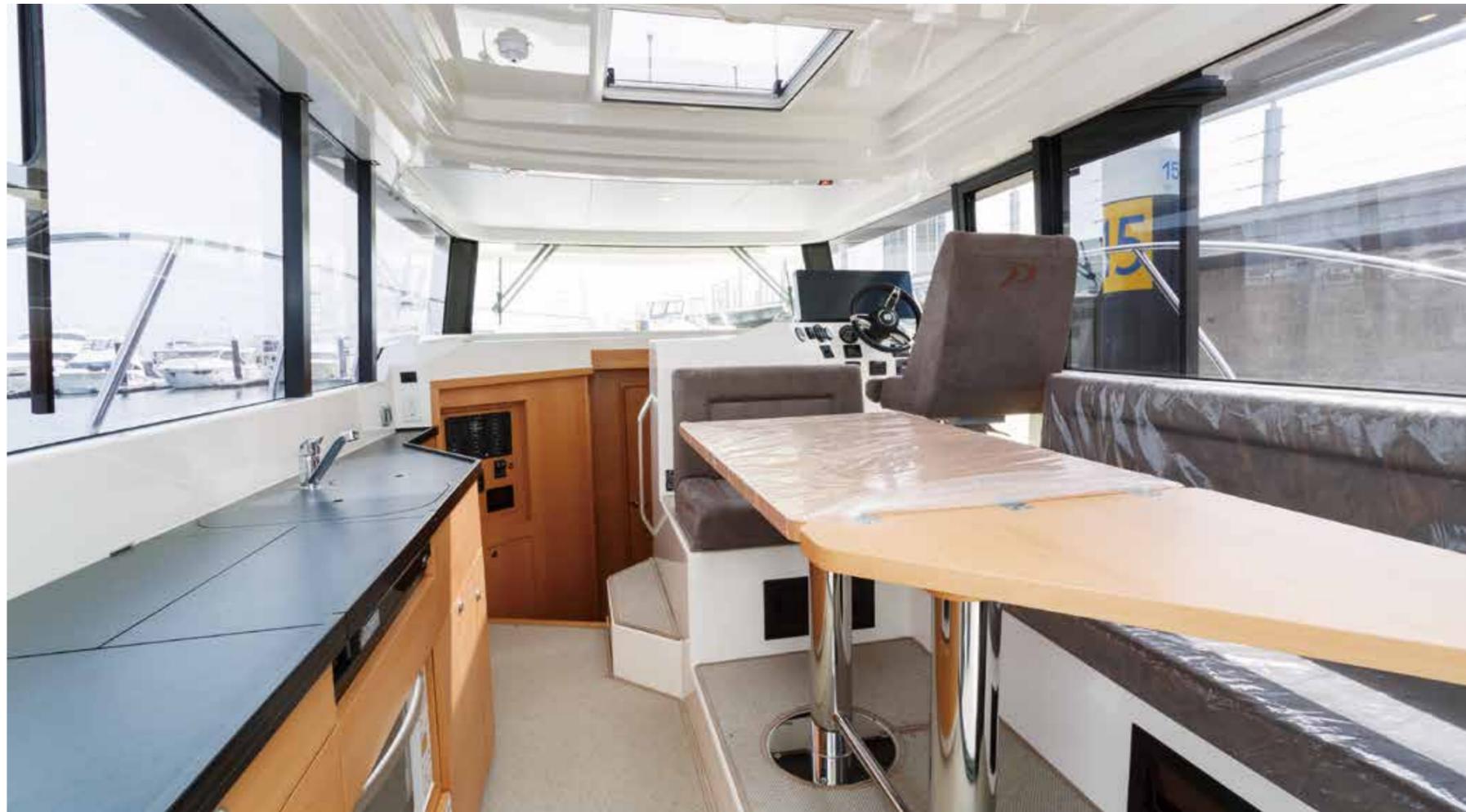
L.O.A.は10.8m、Beamは3.45m。だが、よくある同じハルを使った派生モデルではない。エクステリアやインテリアのデザインだけでなく、ボトムデザインから全て違う。

「1080S」は、オープンモデルがベースのハードトップ。デザイナーはAndrzej Skrzat。スタイリングは、バウシステムが傾斜したオーソドックスなもの。800kgのバラストキールを持つ低重心のハルに、180馬力の小さな



エンジンが1基。プレーニングをすることなく低速のまま運河や湖をクルーズするスタイルだ。「1100S」も1080Sと同じオープンスタイルのハードトップだが、ボトムは滑走型。ほぼ垂直のステムで水線長を伸ばした現代的なもの。380馬力のインボードエンジン1基で、プレーニングをして走る。

そして今回紹介する「1150V」は、他の2モデルとは違うTomasz Rosinskiのデザイン。2016年に50馬力のスタンダードエンジンを搭載したエコトローラーとして登場。その後マイナーチェンジ、2019年にはボトムデザインも変更し、トータル450馬力の大型エンジンを搭載。直立したバウシステムとディープV、パワーボートに使われるステップドハルを採用。もちろん、構造材を見直し剛性を高め、世界標準のスピードと凌波性能を手に入れた。また、スタイリングも個性的。



キャビンは前後に大きく、フロントウィンドシールドは逆傾斜した実用的なワークポートスタイル。パウデッキにもアフトデッキにもルーフが伸びた、独特のスタイリングは機能的でモダンだ。

*

ボツーンに係留される「Escape 1150 Voyage」は、全長10.8mとは思えないボリュームが印象的。水線長を長くとも垂直に近いハウステムと高目のデッキ、逆傾斜したフロントウィンドシールド。アフトデッキもパウデッキもショート。左舷側のサイドデッキを右舷に比べ狭くしたアシンメトリッ

クデザインを採用。機能とデザインを損ねない範囲で容積を最大にしたキャビンは、ワンサイズ上のボートと変わらない広さとアコモデーションを可能とした。

コンパクトなアフトデッキには、3名がゆったりと座ることができるトランサムソファ。トランサムより後方に飛び出させスペースを確保。左右の座席にクッションを取り付ければ、7人が座ることができるパーティー空間が現れる。ソファの前にテーブルを置き、テーブルウェアをセッティングすれば、アウトドアリビングの出来上がりだ。

全長10.8mのサイズとは思えない広いキャビンと充実したアコモデーションがEscape 1150 Voyageの魅力。パウキャビンはマスターステートルーム。パウまでワイドなハルデザインとビームをいっぱいにしたベッドは、クィーンベッドよりも大きいゆとりのサイズ。小さな子供と3人で安心して就寝することができる。



キャビンレイアウトはこのクラスではオーソドックスなもの。スターボード側にはL字のソファ。ポート側にはギャレー。落ち着いた木目のインテリア。床は、水や傷に強いHPL合板。壁や家具に使われている内装材はナチュラルパーチ。エイジドマホガニーやチーク、チェリーも選択することができる。カスタマーの希望により、日本製のIHコンロと電子レンジが日本に取り付けられている。その横には2槽のシンク。コンパクトなキッチンが備わり、コンドミニウム感覚でボートステイを楽しむことができる。

2段上がった高目のヘルムステーションは、シッティングポジションでも視認性がよい。ヘルムのすぐ横には、トローラーに人気のサイドスライドアも備わり、作業性の高い動線が確保されている。ヘルムシート横のソファは前に向けながら座面を高くする仕掛け。走行時にはヘルムシートと同じ

高さとなり、パッセンジャーシートとして活躍する。

アコモデーションもクラスを超える充実したもの。パウキャビンは、左右の大型ウィンドウとトップライトに光が降り注ぐ明るいマスターステートルーム。中央には長さ2,030mm、最大幅1,950mmのサイズを持つ丸みのあるベッド。専用のトイレ&シャワーも整ったマスターステートルームにふさわしいインテリアデザイン。ミジップにはVIP用キャビン。ベッドの天井は低いが、長さ2,000mm、幅1,600のダブルベッドサイズ。フルビームを使ったキャビンは横に広く、左右のウィンドウからは、十分な光が入ると同時に、ベッドから海面の輝きを間近に見ることができる。デイヘッドを兼ねたトイレ&シャワーは、ナイトタイムにはVIPキャビン専用として使うことができる。2つのキャビンがファミリーでのボートステイも楽しいものにし



てくれるだろう。この全長10.8m = 35フィートとは思えない充実したアコモデーションが「Escape 1150 Voyage」の最大の魅力なのだ。

*

ヘルムシートに着座する。フロアが高く、カーライクなヘルムポジション。パワートレインはVOLVO PENTAのD4エンジンにスタンドライブ2基。3.7L、225馬力のコモンレールディーゼルトーボが静かに回転を上げる。燃料はほぼ満タン、風速は5~10m/s、波高およそ1mの悪条件での試乗。ボートの性能が良く分かる。

1,000回転で6.6ノット、1,300回転で7.3ノット、1,600回転で8.3ノット、1,900回転で9.1ノット、2,200回転で11.4ノット、2,500回転で14.5ノット、2,800回転で16.5ノット、クルージングスピードの3,100回転で22.1ノット。居住性を重視するトローラーとしては十分なスピード。今回は3,100回転以上の最高回転を試すことはしなかったが、高いシーワージネスとスタビリティ、船体の剛性感を体感。スタンドライブのハンドリングはトローラーとしてはクイックなレスポンス。安定した姿勢のまま、素直なマニューバを描き、経験の浅いキャプテンでも操船しやすいはずだ。

*

全長10.8m、全幅3.45mという限られた空間が生かされた「DELPHIA Escape 1150 Voyage」。コンパクトなサイズに、広い空間と充実したアコモ



デーションを持つモダントローラー。同時に、スピードとシーワージネス、マニューバビリティを高い次元でかなえたバランスの良いモダンデザイン。日本にジャストサイズのマルチパーパスなモダントローラーが、日本沿岸のクルージングシーンを変えてくれるだろう。P.B.

DELPHIA Escape 1150 Voyage

全長 10.80 m
 全幅 3.45 m
 喫水 0.90 m
 重量 7.20 ton
 エンジン 2x VOLVO PENTA D4
 最高出力 2x 225 HP
 燃料タンク 300 L
 清水タンク 250 L
 問い合わせ先 オカザキヨット
 TEL: 西宮 0798-32-0202、横浜 045-770-0502
<http://okazaki.yachts.co.jp>



YouTube